

## 自動販売機を核とした大学と地域の連携によるリスクミティゲーション・コミュニティ構築に関する研究

### A Study of Constructing Risk Mitigative Community by Cooperation with Residents and University through Auto-Vending Machine

鐘ヶ江 秀彦・大槻 知史

Hidehiko KANEGAE, Satoshi OTSUKI

本研究は、大学を地域の災害時ベースキャンプに、災害対応型自動販売機を地域の物資・情報提供のサブステーションにそれぞれ位置づけた上で、歴史文教地区における住民・企業・大学の連携によるコミュニティ防災システムを構築することを目的としている。

本年度は、近畿コカコーラボトリング株式会社との研究協定締結をもとに、地域住民とのワークショップを通じて災害対応型自動販売機を活用したコミュニティ防災の検討を行った。その結果、1) 地域住民の災害リスク認知は

高く、大学・企業と連携した防災対策の必要性を認識していること、2) 歴史文教地区では景観への悪影響が大きい防災対策は合意形成できないこと、の2点が明らかになった。

これを踏まえ本年度は、コミュニティ防災のための住民・地域組織(社会福祉協議会・PTA 等)・大学・企業の連携によるリスクコミュニケーション・ネットワークの構築を行った。あわせて、歴史文教地区における「防災」と「景観」のトレードオフを踏まえて、景観の側面からも許容可能な災害型自動販売機のデザインを同定するための、自動販売機のラッピング実験について実験の設計を行った。なお、ラッピング実験は来年度に行い、環境心理学・感性工学の視点から歴史文教地区で導入可能な災害対応型自動販売機のデザインを同定する予定である。その後、この災害対応型自動販売機を核として、住民・地域組織(社会福祉協議会・PTA 等)・大学・企業の連携によるコミュニティ防災のプランニングについて、プランニングの設計および社会実験、さらには効果の検証を行う予定である。



写真: 災害対応型自動販売機